

# ゆめ通信



★平成28年度地域フォーラム



★梓乃森祭 再生食器の活動展示



★こども広場 クリスマス会



★梓乃森祭  
すすき川花火大会写真・  
絵画コンテスト入賞作品展示

## 2 第3回あるぷすタウン開催準備中

## 3 おめでとう 受賞の報告

信濃育英会・食と農林漁業大学生アワード  
松本大学地域貢献大賞・長野県更生保護大会

## 4~5 第50回梓乃森祭での活動紹介

## 6~7 松本大学地域フォーラム開催

## 8 考房「ゆめ」みんなの掲示板

考房「ゆめ」は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



地域づくり考房「ゆめ」キャラクター こう坊



# おめでとう 各賞受賞の個人、団体

9月以降に考房「ゆめ」のプロジェクトなどで、まちづくり、震災復興支援、更生保護等の活動に対し表彰を受けた方を紹介します



**信濃育英会 第22回「明るい社会に貢献する奨学生」奨学金授与**  
総合経営学部 総合経営学科3年 堀江穂乃花

今回信濃育英会という明るい社会に貢献する奨学生に採用していただき、自分の活動がこのような形で認められたことをとても嬉しく思っています。これらの活動を始めたきっかけは自分自身のためでしたが、自分の活動が誰かから感謝をされたり、誰かの役に立てていることが分かり、よりやりがいを感じています。3年生後半になり就職活動も忙しくなりますが、後輩に活動の楽しさや得られるもの、責任などを伝えていきたいです。

【受賞理由】すずき川花火大会プロジェクトの学生リーダー、ならびに青少年の更生支援を続ける松本BBS会の一員としての活動



**農水省主催「食と農林漁業大学生アワード」ファイナリスト**  
人間健康学部 健康栄養学科2年 御子柴優里、林沙奈、井越奈々美



私たちは、「ええじゃん栄村」プロジェクトの代表として11月に東京で行われた「食と農林漁業大学生アワード」本選に出場しました。きっかけは信濃毎日新聞にイタドリレシピ集の記事が掲載されたことでした。アワードを運営している学生団体所属の宇都宮大学生の目に留まり、栄村の復興や魅力を伝えようと応募したところ、36団体による書類審査をへてファイナリストの10団体に出選していただきました。本選では、私たちが行ってきた活動について発表をしました。審査員の先生方を含め多くの方がいましたが、良い緊張感をもって発表できました。農林水産大臣賞は受賞できませんでしたが、私たちの活動をより多くの方に発信できていたら嬉しいです。今回の経験はもちろん、アワードで学んだことを今後の活動に活かしていきたいです。

人間健康学部 健康栄養学科2年 御子柴優里



**ものぐさ太郎賞 第7回松本大学地域貢献大賞**  
人間健康学部 スポーツ健康学科3年 小野剛

私は、第7回松本大学地域貢献大賞選考会で「ペットボトルサッカー」についての発表をさせていただきました。初めてこのような場に立ち、キッズサッカーの活動発表をする際にはとても緊張しました。発表の際にいきなり嘔んでしまい、思うようにできませんでした。支えてくださった方々のことを思いながら発表し、最後には思いが込み上げて泣いてしまいました。

私一人の力では受賞することは不可能でした。たくさんの方の支えがあって、受賞へと繋がったのだと思います。今後もメンバー全員でサッカーを通して地域に貢献していきたいです。



**BBS会所属の4年生4名に長野保護観察所より感謝状**  
観光ホスピタリティ学科4年 小西夏子、中島麻衣、吉田未菜子  
総合経営学科4年 香山健

このような光栄な感謝状を、1年生の初めから仲良く一緒に活動してきた4人同時に頂けたこと、とても嬉しいです。でも、少年たちとの交流の中で気付かされることや学ぶことは、むしろ私たちのほうが多いのではないかと毎回感じているので、この話を聞いたときは少し不思議な感じもしました。これからも、より楽しく、より良い活動をしていくために、勉強や経験を重ねていきたいです。

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科4年 小西夏子



左から中島さん、吉田さん、香山さん



マスコミ取材の関係上、お子さんの映像や写真が放送される場合があります

第3回 子どもたちが創り上げるまち

# あるぷすタウン

申し込み締切り  
1月16日(月)  
消印有効

「あるぷすタウン」は、子どもたちがまちも運営し創り上げていく子どもだけのまちです。本物の仕事もプロの方に指導していただき、実際の仕事に触れ、給料ももらう、税金も納める、残ったお金は自分のために使う、という社会システムの基本も知ってもらおうという取り組みです。



日時：2017年2月18日(土) 19日(日) 両日ともに10:00~16:00  
参加費：1,000円(地域通貨引き換え分) 参加対象：小学校4年生~中学生(2日間参加できる人)  
会場：松本大学5号館等 参加人数：200名程度(抽選)

申し込み：往復郵便ハガキに申し込み生徒の氏名、学校名、学年、住所、電話番号、保護者氏名を明記の上捺印後、〒390-1295 松本市新村 2095-1 松本大学ゆめづくり考房「ゆめ」あるぷすタウン実行委員会宛郵送

## あるぷすタウンでどんなお仕事ができるの？

税務署	ハローワーク	病院	プラ板	創業支援
消防署	ビルメンテナンス	文芸	パン屋	マジシャン
アロマウエディング	雑誌	写真屋	イラスト	
ラジオ局	あるぷす山荘	手芸	塗 装	コピック

他にもたくさんブースがあります！

今年は、新メンバーが多く実行委員会に加わったことで、新しいアイデアを取り込み、よりリアルな街創りを考えています。

プロの方から仕事を学生が学び、当日プロの方と学生と一緒に仕事を子どもに教えられるように今年は企業説明会と学生説明会を開きます。

子どもと触れ合うのが好き、大学生活で何か実績を残したい方など、随時参加を募集中です。ご参加お待ちしております。

## 高校生・大学生のボランティア募集中です

総合経営学部 総合経営学科3年 水野 佑紀

現在、あるぷすタウン実行委員会は、当日の仕事ブースの企画作成と子ども達の参加募集、高校生・大学生のボランティアスタッフの募集を行っています。

第3回のあるぷすタウンでは、新しい仕事ブースを増やし、子どもがより多くの仕事に携わることにより、まちの仕組みを知り、子どもの頃から地元地域に興味を持ってもらうことを目的としています。又、将来の夢の可能性を広げてもらえるきっかけになる場所になるように目指しています。

# 50th Anniversary

第50回目の梓乃森祭において考房「ゆめ」では、5号館ロビーでゆめひろば、教室での活動紹介や模擬店での豚汁やスープの販売を行いました。更に企業と連携しての「orange」複製パネル展、考房「ゆめ」も協力した和(なごみ)カフェなど盛りだくさんの活動を行いました。

ええじゃん  
栄村

## 「トマトスープ」



こんにちは、ええじゃん栄村です。皆さんは、5年前の2011年3月12日におきた栄村の大地震を覚えているでしょうか。私たちええじゃん栄村では栄村地震の復興活動などを行なっています。今年の8月6日には栄村を訪れ、震災後の現在の状態を見てきました。今でも地震の跡が残っており、栄村地震の被害の大きさを改めて感じることができました。

また、大学祭では栄村のトマトを使ったトマトジュースを使用したトマトスープを販売しました。栄村に少しでも興味を持ってくれた方はぜひ一度地域づくり考房「ゆめ」まで、遊びに来てください。

人間健康学部 健康栄養学科1年 雨宮里穂

◎いただきます!!

## 「野菜たっぷり豚汁」



今年の大学祭では、昨年同様に野菜を丸ごと使用した豚汁を販売しました。事前から豚汁の具材を決め、ポスター作成を行い当日に向けて準備をしました。

当日は材料不足により最後は汁のみでの販売や、準備の段階での連絡不足、うまくいかないことが多くありましたが、プロジェクトメンバーの協力で約200食の豚汁を完売することができました。汁のみの豚汁を買ってくださる方や、朝から並んで買ってくださいました。周囲からの評判もよかったので今年の反省点を生かして、来年も引き続き販売してほしいです。

人間健康学部 健康栄養学科2年 小河原麻衣

## 親子でプラレール体験

### ●上高地線応援隊●

私たち「古い電車で新しい語らいの会(上高地線応援隊)」は数年ぶりに地元松本大学の文化祭、梓乃森祭にコーナーを出させて頂きました。主な内容は、皆さんに懐かしいおもちゃプラレールで自由に遊んで頂く事でした。そもそも私たちの会は2006年12月24日に、松本大学で行われた地域づくりの講習会があり、松本大学生・公共交通関係者・地元住民が主なメンバーのグループが出来上がり、使われていない電車を利用しての地域おこしを目的に作り上げられたものです。その後何回か地域おこしの成果を見ていただくべく、大学祭への参加をさせて頂きました。結成から10年経った今年も機会を頂き、プラレールを中心に公共交通に興味を持って頂ける様、啓発展示などを行いました。二日間で大勢の方にご来場頂き、会の活動を知って頂けました。ありがとうございました。

上高地線応援隊 山口茂



### 上高地線応援隊の活動に参加して

自分は大学祭の時の少しの時間にしか参加できなかったのですが、子どもたちが自由にプラレールの線路を考え作り、大人は見守り、子どもたちがどうすればいいか迷ったときに手伝うくらいでした。自分も子供の頃、プラレールで遊びました。レールが足りずに長い線路は作ることができませんでした。上高地線応援隊にはレールがたくさんあり、道具もあり、子どもたちは何時間も遊んでいられるし、大人も楽しめると思いました。

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科2年 塚田慎吾

# 梓乃森祭 Report

## 県社協の 紹介ブース



はじめまして♪私は長野県社会福祉協議会の公式キャラクター「ふっころ」と申します。

10月の梓乃森祭に参加させていただきありがとうございました!

社会福祉協議会が梓乃森祭に出展するのは初めてとのことでドキドキでしたが、学生さんのいろんな活動を知ることができて、とても楽しかったです。

梓乃森祭では12月におこなった「第40回信州発ボランティア・地域活動フォーラム」のPRをさせていただきます。このフォーラムは県内のボランティアや地域活動に取り組む老若男女が一堂に会し、ともに考え学び合い、新たな繋がりを活動の「きっかけ」の場として毎年開催しています。今年は松本大学の学生さんにもご参加いただき、地域と「共に」行っている活動をたくさん紹介していただきました。ありがとうございました!

ところで皆さん、「社会福祉協議会」ってご存知ですか?

社会福祉協議会、通称「社協」では「つながり支え合う地域づくり」を目標に、様々な活動をおこなっています。「福祉」とは「ふだんのくらしのしあわせ」のこと。皆さんと一緒に「ふくし」について考えてみませんか?ぜひ一度お近くの市町村社会福祉協議会へお越しください♪お待ちしております!

長野県社会福祉協議会 ふっころ(齊藤舞)

## 『orange』 複製パネル展

複製パネル展という前例の無い取り組みで、企画や装飾をゼロから考えるのはとても難しい事でした。普段は講義室の会場をいかに可愛くするか、どのように人を呼び込むかが大きな課題だったからです。

クイズラリーや景品、チラシ、原作へのメッセージなど様々なイベントを考えました。その甲斐あって、当日は1日目約230人、2日目約330人という多くの方にパネル展を楽しんでいただくことができました。またorangeを知らない方も「漫画を読んでみたくなった」「こんなに松本が出てくるんだ」など興味を持つきっかけとなる展示会にすることができました。協力してくださった関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

総合経営学部 総合経営学科3年 堀江穂乃花

## Sign



今年の梓乃森祭でSignは、要約筆記と点字体験のコーナーを実施しました。要約筆記では、災害時のニュース速報の映像を流し、その情報を要約して耳の聞こえない方に

紙に書いて伝えるという状況を想定してもらい、行ってもらいました。点字体験では、点字の表を見ながら自分の名前を点字盤を使って打ち、名刺を作ってもらおうというコーナーを実施しました。要約筆記は実際の映像を流したことで臨場感を持って体験していただけたと思います。点字は、Signのメンバーも始めて点字盤を使ったので、メンバーにとってもいい経験になったと思います。来年も、今年の学園祭の反省点やよかった点を活かし福祉体験コーナーを実施できればと考えています。

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科3年 白倉沙貴

## 不用食器の配布・ 再生食器の活動

大学祭の2日間ではシンプルなキャラクターが描かれた食器を種類ごとに分けて配置しました。今回は多くの方に食器を見て頂き気に入った食器は無料配布しましたら喜んで貰いました。また、食器を無料で回収活動も行っていると伝えられた所、お客様は「今度食器を持っていく」と言って下さり、少しずつではあるが食器回収活動も広がりつつあると思いました。今回はパネルを中央に配置した事で食器回収の一通りの流れが分かる様に工夫しました。お客様に流れを理解して頂き良かったと思いました。

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科4年 中田馨

## お休み処 マーブルの会

新村公民館・福祉ひろばを中心に活動している「マーブルの会」の協力でお茶と漬物でほっと一息ついていただくコーナーを今年も運営できました。おやき、ちらし寿司など目玉商品は今年も人気でした。

私は「何か役に立つことがしたい」と感じ、新村地区マーブルの会さんのボランティア活動に参加することにしました。初めは緊張と不安ばかりでおどおどしてしまいましたが、お客様の接待やマーブルの会の方々との交流を通して、様々な事を学びました。その中でも相手の事を考えて行動するという事を学ばせて頂き、日頃から意識していこうと感じました。

このボランティア活動を通して貴重な体験ができ、本当に良かったと感じています。今後もボランティア活動を続けるとともに、新たな発見を沢山見つけていきたいと思っています。

松商短期大学部 経営情報学科1年 五味尚也



# 平成28年度 松本大学地域フォーラムを開催しました

「私たち学生は地域のために何をすべきか」をテーマに長野県内外の学生同士が交流しました。  
5大学、短大から38名の学生が6グループに分かれて各自の現在の活動の悩みや課題を解決するために知恵を出し合いました。



## 参加者に聞きました

**Q** 参加してみて自分の大学の活動に取り入れてみたいことがあったら教えてください

**A** 私たちは子どもに職業体験をしてもらおう活動をしている。いろいろな角度の地域貢献があるのだとフォーラムに参加して知った。小さな子どもを預けられる託児所みたいな場所があればイベントに参加できる親子連れの方が増えると思った。  
田園調布学園大学2年 望月陽加さん

**Q** 松本大学生の取り組みを聞いての感想は?

**A** 一つ一つの団体が地域とのかかわり方に特化していると感じた  
共愛学園前橋国際大学1年 若狭隆裕さん

**A** OB や OG の方が、グループをまとめるのが上手だった。松本大学生はフレンドリーでとても関わりやすかった。そしてなにより自分たちの活動に対する目的がしっかりしていると感じた  
田園調布学園大学3年 太田裕弥さん

インタビュー担当:ゆめ編集プロジェクト  
塚田慎吾(観光ホスピタリティ学科2年)、牛越洋平(観光ホスピタリティ学科1年)



## 卒業生がファシリテーター

学生がグループワークを行う上で、松本大学の卒業生10名がグループに入りました。(写真左 事前の打合せ会)

松本市の地域づくりインターンとしてまちづくりの最前線で働く4名、学生時代に「ゆめ」や地域交流サークルの活動を経験してNPO、企業や商工会等で働く6名の計10名です。総合経営学部OGで山形村商工会の島崎真代さんからは「学生との交流機会がなかなかないので、社会人目線とは違った意見が聞け良い刺激になりました。皆さんしっかりと意見を持っていてビックリしました。1回だけのフォーラムではなく発展していくような形にしても良いと思います」と感想が寄せられました。



## 12月3日(土)

オープニングセレモニー  
グループワーク

活動紹介と質疑  
ワークショップ

- ・「地域づくり」と「学生(若者)」の関係図を作ろう
- ・まとめ グループごとに模造紙をみながら発表

各大学よりひとこと

- ・こどもがつくる町ミニたまゆり(田園調布学園大学)
- ・信州学生サミットの案内(長野大学)
- ・あるぶすタウンの取り組み状況(松本大学)
- ・地域にお出かけ松短ブラザーズ(松本短期大学)
- ・限界集落で学生が出かけて行う雪かきや地域行事参加(共愛学園前橋国際大学)

※( )内が学生による発表大学名

## 12月4日(日)

県外参加大学による街歩き  
松本電鉄新村駅、松本市上土カフェ

## 参加した大学名

田園調布学園大学(神奈川県)、共愛学園前橋国際大学(群馬)、西南女学院大学(福岡)、長野大学、諏訪東京理科大学、松本短期大学、松本大学 下線は教職員のみ参加

## おたより

共愛学園前橋国際大学3年 井野明日香さんより

私達共愛COCOは創立してから2年目に入りました。「地域は何を求めているのか」「学生は何ができるのか」と常に考え行動しているもののまだまだ模索しています。そんな中で、今回のテーマ「私たち学生は地域のために何をすべきか」は正に今私達が求めているもので、更に地域から愛されている憧れの松本大学で今回のような機会を設けて頂いたことは、大変貴重な経験となりました。また地域を専門に活動している方々からの言葉は「もっと頑張ろう」と熱い気持ちになりました。ありがとうございました。



## ■みすず屋で交流をしています■

新村郵便局近くのみすず屋で週1回の営業日に  
松大生も交流をしています。  
今年になって行った活動のレポートです。

## 来店者が心待ちにするお店

私は後期からみすず屋さんにお邪魔しています。活動に参加しようと思ったきっかけとして、みすず屋さんを通して地域の方々と触れ合えたら考えたためです。



みすず屋さんでは、コーヒーやうどんが店のメニューとしてあります。また、自家製の煮物やお漬物を持ち寄り、それをつまみながらコーヒー片手ににぎやかに話されている様子が印象的です。地域の方々は週に1回みすず屋さんがオープンする日を心待ちにしている様子を拝見して、私は新村地区にはなくてはならないコミュニケーションの場であると感じました。松本大学の昔の話や最近の社会現象などお話が聞けてとても楽しいです。

人間健康学部 健康栄養学科3年 三沢春菜

## みすず屋で読書会

11月16日にみすず屋で読書会が開催されました。学生手作りのお菓子を召し上がって頂きながらの読書会でした。皆さん読書会で紹介する本を選ぶ準備を行ってきました。読書会は一人ずつ本の魅力、エピソードを含め紹介するなかで貴重なお話を聞く事ができました。専門書や手塚治虫『リボンの騎士』などの漫画「詩、雑誌、食品関係レシピ」、健康に役立つ語呂合わせの本などの紹介に体と歯を大切にしたいと思いました。

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科4年 中田馨

## つぶやき

昨年の梓乃森祭のカフェ「Veg Sweets」（ええじゃん栄村含むプロジェクト）を運営した経験をもとに今年是有志で「和（なごみ）カフェ」（フォレストホール）に取り組みました。

今年「和」をテーマとしたカフェで当日はたくさんの方に足を運んで頂き、商品を完売することができました。商品は小布施堂様の栗菓子で、三とせをもとに松本大学のイメージカラーを盛り込んで作成した「いがぐり」と小布施堂様で販売している「栗むし」、「栗アイスクリーム」の3種類の商品を販売しました。7月から活動を始め、お菓子を提供して下さる提供先を決めることから始まりました。最初はスタッフメンバーがいない状態からのスタートでしたが、当日は28名のスタッフで運営することができました。和カフェを通して、スタッフが自由に意見を言い合える環境・雰囲気を作ることの大切さに気がきました。また、たくさんの方に協力をして頂いたからお客様に喜んでもらうことができたと思います。本当にありがとうございました。

（人間健康学部 健康栄養学科3年 栗原 瑠美）

## 新村文化祭レポート

11月6日の日曜日、新村公民館で開催された新村文化祭に中山ゼミの有志でタピオカを販売させて頂きました。当日はとても寒く、準備から大変だったのですが隣で抽選



会を出店していた方々に助けをもらいながら販売することができました。気軽に話しかけていただき、新村の皆さんはとても人柄が良くて親切な方がたくさんいるんだと思いました。また、地域の学校の演奏など、とてもすばらしく特に小中学生の楽器演奏が心に残り楽しい時間を過ごせました。風船を作って小さい子供たちにあげたのを、とても喜んでもらえてよかったです。結果、タピオカジュースはあまり売れませんでした。心配していただいて近くの方が買ってくださり人の温かさを感じることができました。

松商短期大学部 商学科1年 赤羽真菜

## 新村公民館行事「新の里ウォークラリー」の感想

10月2日に行われた新の里ウォークラリーでは、岩崎神社などの新村地域の文化・伝統に関する様々な場所を巡りました。私の知らない新村がたくさんあり、とても勉強になったとともに、新村の地を自分の足で歩くことで、改めて新村地域の自然の豊かさを感じることが出来ました。イベント終了後には美味しいカレーを振る舞っていただき、心も胃袋も満たされ、大変充実した一日となりました。実際に目で見て、空気を肌で感じるウォークラリーは自分へのとてもいい刺激となりました。



経営総合学部 観光ホスピタリティ学科2年 小松春道

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



## 松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

T E L : 0263-48-7213 (直通)

F A X : 0263-48-7216 (直通)

E-mail : community@matsu.u.ac.jp

U R L : <http://yume.matsumoto-u.ac.jp/>

※開館日時：月～金 9：00～18：00